

## 平成28年度 第2回下野市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年2月24日（金）午後3時00分～午後4時00分  
2 場 所 下野市庁舎 3階 教育委員会室  
3 出 席 者 下野市長 広瀬寿雄

### （下野市教育委員会）

教育委員長	永山伸一
委員	三橋明美
委員	熊田裕子
委員	石嶋和夫
教育長	池澤勤

### （事務局関係）

総務部長	山中庄一
総務人事課長	清水光則
総務人事課主幹	大口貴史
総務人事課主幹	黒川晴之
教育次長	野澤等
教育総務課長	坪山仁
学校教育課長	海老原忠
教育総務課主幹	古橋栄一
学校教育課主幹	西松治彦

4 傍聴人 1名

5 議 事

- (1) 南河内中学校区小中一貫教育推進協議会への諮問に対する提言について（第一次提言）
- (2) 小規模特認校の取組に対する検証結果について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

坪山教育総務課長	<p>ただいまより、平成28年度第2回下野市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>はじめに広瀬市長からごあいさついただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
広瀬市長	<p>皆さんこんにちは。第2回の総合教育会議ということで、委員の皆様には大変お忙しい中、また、今まで教育委員会で協議いただいたものを改めて総合教育会議でも協議いただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議事は南河内中学校区小中一貫教育推進協議会への諮問に対する提言について、小規模特認校の取り組みに対する検証結果について、及び今後のスケジュールについてとなりますが、2つの案件につきましては平成25年11月策定の『下野市学校適正配置基本計画』に基づいて、随時小中一貫教育の在り方及び小規模特認校制度の導入についての検証をしっかりと行って、この基本計画に基づいた次の計画に対しての御提言または協議という形になっております。南河内中学校区の小中一貫教育推進協議会義については、先ほど石嶋会長から第一次の提言をいただいたところです。これらについて再度改めて協議いただくこととなります。</p> <p>未来に向けて本市の教育環境をどのように作っていくのか、大きな礎になるものと考えております。皆様とともに将来に向けて、協議をしながらより良い方向性を見い出せるように頑張っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。冒頭のあいさついたします。</p>
坪山教育総務課長	<p>ありがとうございました。続きまして、永山教育委員長よりごあいさつをお願いいたします。</p>
永山教育委員長	<p>皆さん、こんにちは。本日は、第2回下野市総合教育会議ということで、広瀬市長、委員の皆様、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>ただいま市長からのご挨拶の中にもありましたとおり、本日の議事の中には「南河内中学校区小中一貫教育推進協議会」からの答申についての協議がございます。</p> <p>小中一貫教育という言葉聞いてから久しくなり、私たちの耳にも馴染みの深いものになりました。当然、義務教育ですから全国一律の教育が非常に大切であるわけです。ですが、そういったビジョンというのは、国から県に、県から市に流れてくるときには輪郭がぼけてしまいます。</p> <p>こういった問題はその子どもたちに一番近い所、地域に一番近い所、つまり市長さんや私たちを含めて下野市民が一番近い所から一番近い目で見えて考えていくべきものだと思います。</p> <p>そういう点で、よく「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、子どもたちを見るときには木も森も両方しっかり見ながら、子どもたちへ均質な教育という森の部分も見ながら、下野市の子どもたちに今ここで何が必要なのかをしっかりと見極めながら議論していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
坪山教育総務課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて議事に移ります。広瀬市長の議事進行でよろしくお願いいたします。</p>
広瀬市長	<p>それでは早速議事に入らせていただきます。</p>

<p>海老原学校教育課長</p>	<p>(1)南河内中学校区小中一貫教育推進協議会への諮問に対する提言について(第一次提言)を議題といたします。事務局より説明をお願いします。お手元の資料をご覧ください。</p> <p>今年度7月1日の諮問を受け、南河内中学校区小中一貫教育推進協議会が6回開催され、第一次提言が作成されました。</p> <p>今後も協議会におきまして様々な事項が審議されることが想定されるため、今回の提言は第一次提言とされています。</p> <p>以下、提言内容、附属資料について説明を行う。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>意見等がありますか。</p> <p>保護者への説明会は4回、今の説明ですと、小中一貫教育は受け入れた上でその先の質問が多かったという説明ですが、地域において小学校があるところは一つのコミュニティを作っていると思います。その点についての質問等はありませんか。</p>
<p>海老原学校教育課長</p>	<p>地域の行事等があったり、地域の中心になっている部分についてご意見もございました。行事等も含めて、できるだけ地域の皆様の意見をいただいて、その意見も踏まえながら義務教育学校を作っていくという話を申し上げました。具体的な内容についてはまだ決まっていませんので、意見等をいただきたいという点、これから保護者説明会も実施していく点をお話ししました。委員の中には地域の方もいらっしゃいますので、その方を通して意見の集約もできると考えております。</p>
<p>永山教育委員長</p>	<p>提言3で義務教育学校は南河内中学校の敷地内への建設を考えているようですが、そうすると一番遠い通学距離はどれくらいになるのでしょうか。</p>
<p>海老原学校教育課長</p>	<p>7キロ~8キロになります。</p>
<p>永山教育委員長</p>	<p>通学についての支援、バス等についてはこれからの議論になるのでしょうか。</p>
<p>海老原学校教育課長</p>	<p>安全面の配慮が重要ですので、スクールバスの登下校を考えておりますが、具体的な運行計画についてはこれからと考えております。</p>
<p>永山教育委員長</p>	<p>以前通学路の検証をした際に、距離はさほどでもないが、この道を通らせるのは危険ではないか、という箇所がありました。その辺の通学路の安全性についても今後議論してほしいと思います。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>他に意見等がありますか。</p>
<p>石嶋委員</p>	<p>施設一体型の義務教育学校の一番のメリットは、児童生徒の人数を確保できる上に教職員の人数も確保できるということだと思います。そうすると、今までできなかったそれぞれの子どもたちに応じた複数の先生による指導が可能になるということを期待しています。学年単学級では校長、教頭、教務主任と担任の先生しかおらず、たとえ子どもたちの人数が一桁でも、一人で対応するのは難しく、ある程度の規模になれば加配の先生をいただいたり、学年全体で習熟度別に対応するなど、様々な指導の可能性が出てくるので、ある程度の規模と職員数は必要であると思います。特に中学校との連携を図ると、音楽美術などの専門的な分野の先生方の助っ人が入り、今までにないような教育が実践できると期待しています。</p> <p>ただ、あまりに規模が大きすぎると大変であると思うので、南河内中学校区の700人前後はちょうどよいのではとイメージしております。</p>

広瀬市長	<p>1年生から9年生まで先生が同一者である方がいいとの提言がありました が、小学校1～6年生まで先生と一緒にいるんですね。その中で学習に躓 いてしまう子もいるので、ややもすると1年生から9年生までいても、同じ く躓いてしまう子が出てこないとも限らないので、そこはきちんと一体感 を持って指導していかなければならないと思います。</p>
全委員 広瀬市長	<p>また、私見になりますが石嶋委員がおっしゃった700人規模はちょうどよ いのではないかと思います。ある意味大人から子どもまでいるような、下の子は上 に育てられるというようなこともできるのかな、とっております。</p>
古橋教育総務課主幹	<p>それでは、本提言について総合教育会議として、承認、またその内容の受 け入れるかについて決を採らせていただきたいと思ひます。</p> <p>提言書を受け入れさせていただくことにご賛同いただく方は挙手をお願い いたします。</p>
全委員 広瀬市長	<p>(全員挙手)</p> <p>挙手全員ということですので、本提言書に従いまして進めていただきたい と思ひます。</p>
古橋教育総務課主幹	<p>続きまして、(2)小規模特認校の取組に対する検証結果についてを議題 といたします。事務局より説明をお願いします。</p> <p>お手元の資料をご覧ください。</p>
広瀬市長	<p>下野市学校適正配置推進協議会では、本年度4回の会議を開催し、地元の 意見が聞きたいとのご意見を受けまして、小規模特認校である細谷小学校と 国分寺西小学校において各校2回ずつ全4回の地元説明会を実施いたしま した。検証にあたりましては取り組み内容に加え、説明会のご意見を参考に しながら協議を進めました。今回の検証結果は当協議会の設置要綱により教 育委員会に提言することとなっておりますので、2月16日の第11回教育委 員会定例会におきまして、提言がなされ、これを受理し教育委員による意見 交換を行いました。</p>
永山委員長	<p>以下、提言内容、附属資料について説明を行う。</p> <p>ただいま事務局より検証結果について説明がありました。この件につきま して、各委員からお一人ずつご意見を伺いたいと思ひます。</p>
三橋委員	<p>まず個人的に驚いたのが、児童数を見て、細谷小学校と国分寺西小学校の 置かれている状況がこんなにも違うということです。私たちが早く気づかな ければならなかったと思ひますが、検証結果は重く受け止めなければいけな いと思ひます。</p>
池澤教育長	<p>小規模特認校をいち早く導入した細谷小学校よりも、当時人数が多かった 国分寺西小学校の児童数減少が著しいという現状と複式学級がなかなか解 消されない状況を鑑みますと、子どもたちの教育環境を考え検証結果を受け 止めなければと思ひます。</p>
石嶋委員	<p>2名の児童に3名の引率職員がつく修学旅行はどのようなものになるの か。責任感などは育つかもかもしれませんが、適正な人数の中で学ばせ、切磋琢 磨し、社会性を育てていくのが適正な集団活動であると考えています。これ は目の前に突き付けられた課題でありますので、早く解決したいと思ひてお ります。</p> <p>今度の学習指導要領のキーワードが「主体的・対話的で深い学び」であつ</p>

<p>熊田委員</p>	<p>て、いつも同じメンバーということは新鮮味がなくなりマンネリ化することが多くなるのではないかと、思います。ある程度の規模の集団がこれからの色々な教育では重要になってきます。小規模の学校と学習活動を充実していくには、今後も推移を見ながら子どもたちにより適した、求められる教育を提供できるようにしていかなければいけないと思います。</p> <p>私ももう少し大きな集団での学びの方がよいのかなと考えております。また、国分寺西小学校の保護者の方は登下校の心配をなさっているようですので、そこは説明をしっかりと行って、安心安全に通学できるように対応していただきたいと思っております。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>市長部局においての動きですが、細谷小学校と国分寺西小学校のみならず吉田西、吉田東児童減少地域においても、なんとかして住んでもらおうという思いで、指定区域内の開発要件を緩和してきました。それが都市計画法第34条第11号の規定です。国分寺西小学校区においてはなかなか上手くいかない状況でありました。反面、細谷小学校区の方は宅地の空いたところに家が建ち、子どもが増えてくるという状況です。</p> <p>少人数ということで考えるのは、子どもたちの団体競技はどうなっているのかなということです。例えば細谷地区でサッカーが好きな子がいるが市内ではなく市外のスポーツ少年団に入っていたり、個人競技で優秀な子もいるが、人数面で個人競技を選んでいる場合もあるのではないかと考えております。子どもたちにはより多くの選択肢を持った上で活動してもらいたいと考えています。</p> <p>市長としては、学校というのは一つのコミュニティの単位として考えてなくてはなりません。しかし、子どもたちが今、将来的にどうなるんだということに特化して考えていかないと、この難しい案件は進まないと思っております。子どもを中心とした思いの中で決定を下すということであれば、小規模特認校に対する検証結果、協議いただいた部分でそれぞれご提言をいただいた方向で進めていくのが肝要ではないかと考えているところです。</p> <p>他に意見等がありますか。(特になし)</p> <p>それでは細谷小学校・国分寺西小学校それぞれについては、提言通り、この方向性で進めていくことになると思いますが、総合教育会議として、この方針を認めるということで決定してよろしいでしょうか。</p>
<p>全委員 広瀬市長</p>	<p>(全員挙手)</p> <p>挙手全員ということですので、この方向性で進んでいただきたいと思いません。</p> <p>続きまして、(3) 今後のスケジュールについて を議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p>
<p>海老原学校教育課長</p>	<p>南河内中学校区小中一貫教育推進協議会の今後のスケジュールについて説明を行う。</p>
<p>坪山教育総務課長 広瀬市長</p>	<p>学校適正配置推進協議会の今後のスケジュールについて説明を行う。</p> <p>意見等がありますか。(特になし)</p> <p>続きまして、(4) その他 について、事務局より説明事項、委員より意見等がありますか。(特になし)</p> <p>それでは、本日の議事案件は全て終了いたしました。貴重なご意見ありが</p>

坪山教育総務課長

とうございました。

以上を持ちまして第2回総合教育会議を終了させていただきます。